

第3回 感想

* 環境情報学府 環境リスクマネジメント M1

稲垣先生の講義では、先生のこれまでのご経歴と研究について、そして1週間の研究者生活を伺いました。

免震構造と耐震構造のお話で、耐震構造では、病院は病院としての機能を果たせない状態になる、という実験映像を見て免震と耐震を同じものと考えていたので、非常に驚きました。超高層ビルにおいて、地震等でエレベーターが使えなくなったときのリスクの数値化が早急になされるべきだと、改めて感じました。

研究者として出身大学に残れる、ということにも羨望いたしました。

志田先生のお話は仕事を辞めて、進学を決めた自分にとって非常に興味のある内容でした。能力の開発を怠るのは社会的に大きな損失であり、キャリアを中断したら女性の場合、非正規雇用になるため、キャリアを中断してはならない、と述べられました。しかし現実には企業で働く女性がキャリアを中断せずに研究生生活と両立する事は難しいと思いました。

女性に限った事ではありませんが、企業ではキャリアを積み重ねれば積むほど、仕事量が増える傾向があり、生活の時間軸が仕事中心に回り、仕事以外のことに時間をとられる人間は企業にとって不利益と思われる傾向があると思います。景気が良い時期は、企業も会社内に育児所を設置し、女性の就業を支援するシステムを構築していましたが、経済が不景気な状態になると、真っ先にこのようなシステムが崩壊し、女性の働きにくい環境に逆戻りし、社内でもこの状況を仕方ないと納得している、というのが現状だと思います。大学では女性支援が進んでいますが、企業ではまだ理想論であるように思いました。

* 環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻 D1

【3限目 稲垣景子先生の講演「都市防災研究とわたしー安全で安心なまちづくり」】

主な講演内容は具体的な研究紹介だったため、本授業の趣旨という点からは、修士から助手に進まれた経緯やその時の想い、現在の特別研究教員としての待遇（研究の自由度以外の長所、短所）や将来の研究者として&女性としてのキャリアパスに関するビジョンなどを伺えるとさらによかったです。ただ、ご研究内容に関しては、現在自分が携わっている研究と近い部分があったため大変興味深く、今後の研究のヒントや参考情報

を得ることができたので、研究という面からは誠に有意義な講演内容でした。

これまでの建築やGISといったご専門を、地震や風水害などの自然災害対策（防災・減災）に適用（応用）されており、他分野の研究者との学際的な研究プロジェクトを複数実施されている点、および実際の社会に役立つ成果（アウトカム）を目指しておられ、フットワークが軽く自ら積極的に現場調査に多数行かれている点は、研究者として学ぶべき点が多かったです。特に、自律的な地域防災力を向上させる方策研究に関する内容は共感する部分が多い研究内容でした。「自律的」という言葉はとても好きな言葉の一つで、防災に関してもキャリアについても重要なキーワードであると思っています。つまり、自らのキャリアは自己責任に基づき自分で創り出していくものであり、決して他人任せの問題ではないということを各人が自覚し、自律的に築いていくことが必要と考えます。それを各人にどうやって気づいてもらえるか、他人の基準や他人との比較ではなく、自分だけの人生をどうやってマネジメントしていくのかについて自ら考え、被る可能性のあるリスクを最小化し、ベネフィットを最大化する努力を継続していくことが、防災面でもキャリア面でも重要であると思いました。

【4限目 志田基与師 先生の講演「社会科学的観点 Sociological Point of View」】

これまでご講演された先生方とは違ってご自身のキャリア紹介は殆どなく、社会学というちょっと距離を置いた客観的・概念的な視点からの内容でしたが、新鮮な切り口で大変面白かったです。（奥様がフェミニストということでしたので、ご家族のお話をもう少し聞きたい気は若干しました…）。

親の職業的地位が、本人の職業的地位に大きな影響を及ぼすという点は、マクロベースで観た場合、全体の中で大きなシェアを占めているのかもしれませんが、このようなデータがあるからとって、じゃあ自分の親は職業的地位が低いから or 収入が低い家庭だから自分は将来もだめだと諦めてしまうような風潮にならないよう、十分留意する必要があります。格差社会の底辺の人たちにも潜在的能力があるにもかかわらず、本人のモチベーションや意識が極めて低く、実行や努力をする気力すら起こらない場合があると思われるため、親の職業的地位に関わらず、複数のチャンスや希望があることは理解してもらうことが重要と思います。

「専業主婦」に関する内容はまさに同感でした。勿論、個人的な価値観や職業選択の自由はあるものの、女性が卒業・就職後も辞めずに働き続けることの重要性は、社会的コストも含めてもっと女性自身が自覚しなくてはならないことだと思います。周囲のママ友にも沢山の専業主婦がおり、子供の病気の時や授業参観等に十分対応できたり（特に、小学校の行事やPTA手伝いなど平日に多く、大半の専業主婦向けに企画されており、共働き家族が十分対応できるものではありません）、習い事の選択が自由にできたり、自由時間が十分ある点は羨ましいと思うこともあります。しかしながら、長い目で考えると、もっと自分の時間（人生）を有効利用して働きながら自らの能力開発と人間

的な成長をしていくことの重要性を理解してもらう必要があること、一旦専業主婦になってしまうと正規社員での社会復帰がいかに困難なものであるかを早い段階から女性をもっと意識して結婚・出産後の自分のキャリア人生を考える必要があると思いました。そのような意識・価値観の改革は難しく、小中学生からのキャリア教育が重要な役割を果たすと思われます。それと同時に、専業主婦に対する優遇措置をできる限り減らし、共働きの方が自分達にとっても社会にとっても得であるという意識改革、税制的な優遇措置、インセンティブなど、社会システムを変革する仕組みがないと難しいのではないかと思います。

* 環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻 D2

担当 志田先生

社会学がご専門の先生であり社会的な視点から、社会の現状や女性の生き方についての講義で興味深い内容でした。